

16 これって文様？

展示の案内をされていて、よく質問されるのが、この大型の甕についてです。

「これって文様ですか？」

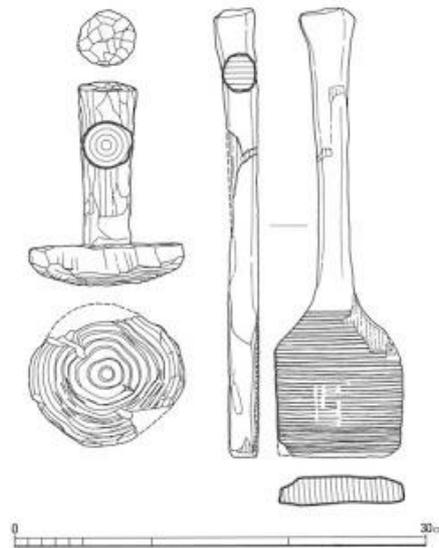
近づいて表面をよく見ると、なにやら凸凹として文様が付けられているようです。



須恵器 甕(かめ) 市辺遺跡(丹波市)出土 奈良時代

表面にある文様？

実はこれは装飾のために付けられた文様ではなく、大きな土器をつくるときに使われる道具（叩き板）の痕跡で、「叩き目（たたきめ）」と呼ばれるものです。



土器作りの道具

(左：当て具、右：叩き板)

大きな土器の作り方ですが、まず、粘土を紐状にのぼし、それをぐるぐると巻き上げ、あるいは輪っか状にした粘土を積み上げて全体の形をつくります。

その後、土器の内側に当て具をあて、外側から叩き板で粘土を叩き、粘土を叩き伸ばすようにして形を整えていきます。

このとき、当て具には同心円（何重もの円）が刻まれ、叩き板には平行線や格子目が刻まれているので、土器の内側には当て具の跡（当て具痕）がつき、外側には叩き板の痕跡（叩き目）がつくのです。



内側に付いた当て具の痕跡 同心円が重なりあう

道具に刻み目が付けられるのは、粘土を叩き締めるのに効率が良かったためと考えられます。

これで解決！・・・と、思ったら、「じゃあ、これもそうなんですか？」と、さらに質問が。



須恵器 甕新宮山中世墓（養父市）出土 鎌倉時代



表面にある文様？

ん～、、、これは単なる道具の痕跡、とは言えないですね、、、

綾杉文の叩き目、と呼ばれているもので、このような装飾を意図した美しい叩き目が他にも数種類あります。

本来は、粘土の叩き締めのために付けられた道具の痕跡ですが、時代と地域によっては装飾効果をねらうものもあったようです。

細かく観察することで、当時の陶芸作家のオシャレな感覚が伝わりますね。

(学芸課 中村 弘)